

ALUMNI

Even when my job & family ties me to Japan, my heart is always in Kg Buayan

Taku, dissolva 2013 & 2014

Dissolva 現地体験の黄金時代を作り上げたリーダー

ご無沙汰しています、覚えてますか？(笑)
DISSOLVA2013,2014に参加したTakuです！
ブアイアン村を訪れてから、早いものでもう10年近く経ってしまいました。社会人になり、日々バタバタしていて、なかなかフレンズたちに会えなかったのですが...
とあることをきっかけにSenseiやDISSOLVAメンバーと再開することが増え、今こうしてコラムを書くチャンスにいただきました。
そんな私ですが、現在は某インテリアブランドにて、コピーライターとメールマーケティングの仕事をしています。ただ、DISSOLVAに参加していた頃は「書くこと」が仕事になるなんて思ってもいなくて...将来どうなるかなんて、本当にわからないものです。
将来なんてわからない、わからないのに...就活や転職、結婚など、人生の転機といわれるシーンでは、何かと選択の理由を求められます。なぜその会社なのか、なぜその人なのか...でも私は、理由よりも気持ちを大切にしています。何かズビッときたから。その感覚は今でも僕の指針です。理由は後からいくらでも産み出せますが、気持ちは後からでは作れないものなので。



Taku joined Dissolva meeting with the students...

例えば、DISSOLVAへの参加を決めたときも、気持ちが1番はじめにありました。大きな決断ほど、心が動くほうを大切にしたいですね。
10年前のあの村の、あの日々の、あの景色のすべてが、僕にとっての色褪せない思い出なのですが、10年後のあの村の、あの日々、あの景色のすべてが、若者にとっての「今」になると思うと胸が熱くなります。現役のDISSOLVAメンバーも、ブアイアン村のみんなも、OBもOGも心が動く瞬間を見逃さずに、毎日を大切に過ごしていきたいですね。

Do you remember...?

No. 13 February 2023

Website: <http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~20070019/dissolva/>
Email: dissolva.project@gmail.com

Buayan-Dissolva Newsletter

What is inside?

Rebuilding the bridge that connects us
page 1

Making bamboo sepak takraw balls
page 2

Farewell to the elders
page 3

Do you remember...?
The youngest leader of the golden years
page 4

私たちと村をつなぐ架け橋を架け直す

2023年1月、パパール川に橋を架けるためのワイヤーが設置されました。2021年9月の洪水で橋が壊れてしまい、代わりに竹の筏で渡っていました。



吊り橋はなぜいいの？

つり橋の主な利点は次のとおりです。経済的優位性(建築に必要な材料の数が少ない); 高さが自由自在(設計次第で好きな高さにできる); 建設時の利点(建設中のアクセス); メンテナンスが容易(修理時にも簡単にアクセス)。

February, March, April & May

Family, friends and neighbours ... Time to get together!

Events calendar

February: Final report meeting & party!

今年の活動を終える時間です。そう、一緒にナシアヤムを食べて、そして一緒に踊りましょう...

March: Graduation Ceremony

さよならシゲさん、さよならヒビさん！ たくさんのご貢献ありがとう！

April: New recruitment 2023

入学する新入生の皆さん、こんにちは！ Dissolvaによろこそ！

May: Kaamatan Festival

8月の「現地体験」企画も一緒に準備していきましょう！

Many thanks, Buayan!

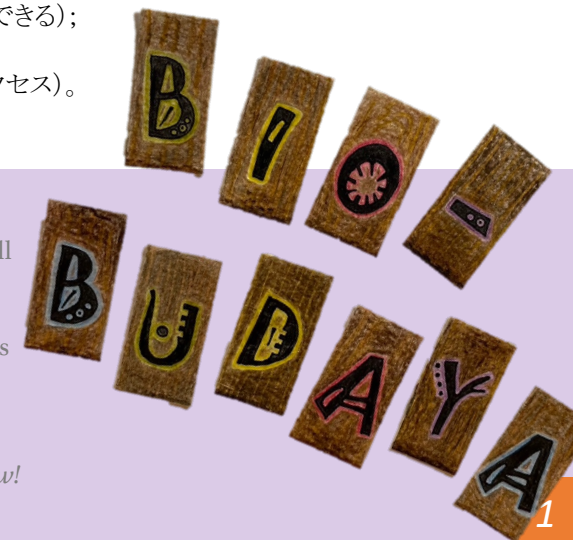


Join us now ...
Save Ulu Papar



Buayan-Dissolva Newsletter is edited by Imelda, Olga, Reina, Tommy, Tayu, and is published every 3 months on our website, facebook and via our mailing list.

Next issue will come out in May 2023. Please send us photographs, essays and comments... And join us now!



Dissolva member note 7



Yuki, DISSOLVA 2022

彼は、乗馬部に所属し、アフリカを専門とする経済学科のゼミにも所属しています。彼には、とても甘くて独特のユーモアのセンスがあります。



私は海外やボランティアなどに興味がありましたが、英語が話せないことやボランティアの経験がないことから実行にうつせませんでした。しかし、3年生の春に、DISSOLVAの説明会に参加して、自分の価値観を広げたいと思い、参加しました。現在はパンデミックの影響で、多くの活動がオンライン上で行われており、数千キロ離れた場所からも交流が可能です。以前は遠いと感じていた海外も、自分の手で届けられるということに感動しました。一方で、私はまだブアイヤンに行ったことがないので、復元されたビオブダヤを見に行き、村人と直接会って対話することが楽しみです。私はDISSOLVAの活動を通じて、人と人、地域と地域のつながりを強めたいと思っています。自分の手で貢献し、他の人々に役立てることは素晴らしいことだと感じます。今後もDISSOLVAの活動に力を注ぎ、自分自身を成長させながら、周りの人々と一緒に歩んでいきたいと思っています。

Dissolva member note 8

学習院大学国際社会科学部国際社会科学科一年の山岡です。私がDISSOLVAの活動を通して現地の方の意見をよく聞くことの重要性を学びました。当然のことを言っているように聞こえるかもしれませんがDISSOLVAのオンラインミーティングしている間は現地の方と時間を共有しているため、私は現地の方と土地も場所も時間も文化も異なるという事実を忘れがちです。こちら側が最善だと感じて提案したことが現地の方と異なることが稀にあり、そういったことが起きる度に私はその事実を思い出します。しかしDISSOLVAの活動を通してより良くしていくべきものは現地の方々の生活であるため、現地の方々の話をきちんと聞いたうえでお互いの意見をすり合わせてより良いものにしていくことが必要だと感じました。この経験より相手の意見を聞くことで自分の意見がさらに良いものになりきたり新たな視点や知識を得るなどの形で私の日常生活に活かしているような気がします。

Yumiko, DISSOLVA 2022

彼女は、可愛くて勉強熱心で、国際社会科学部に所属しています。ドゥスン人の民族衣装がよく似合います。



Dissolva member note 9



Natsumi, DISSOLVA 2022

彼女は、国際社会科学科に所属しており、深く考えるのが好きです。楽器の演奏も得意で、クリンタンガンにも挑戦しました。

国際社会科学部・国際社会科学科1年生の松下夏美です。Dissolvaには、秋から参加しております。元々外国で暮らす人々の生活に興味があり、いつかそういった方々と実際にお会いしてお話したり、交流を深めたりして自分の知見を広げたいと考えていました。Dissolvaでの活動を通して、人々が大切にしている文化や慣習を守る重要性を学びました。それぞれの国や地域に昔から存在する文化や慣習は、グローバル化によって段々と個性を失いつつあるように思えます。例えば、村の料理や楽器など受け継がれてきた素敵なものでも、いつかは文化を継承する人がいなくなり消滅してしまうかもしれません。時代の流れだと思えばそれまでかもしれませんが、私は活動を通してこういったものを残して古くから存在する先人の知識や努力を糧によりよい未来を創造することが、流動的な社会に必要なのではないかと改めて考えました。得ることができた気づきを元に、私たちが伝統を守るために具体的に何ができるのか、何をすべきなのかこれからの活動を通して考えたいと思います。

News from Gakushuin



Dissolva学生たちは合宿に参加し、東京から約3時間離れた東伊豆の田舎町で1泊2日を過ごしました。Dissolvaの活動を通じて学んだことと、この地域を訪れて見聞きしたことを比較しながら、現地の人々にプレゼンテーションを行いました。「地方創生」の考え方は、ボルネオにも日本にも等しく当てはまります。人手不足の果樹園で、学生たちは少しでもお役に立ちたいと思い、みかん狩りに励みました。

竹製セパタクロール作り

そう、ここでもまたセパタクロール作りには竹が使われています。ビオブダヤの居間の頭上スペースの装飾として、学生たちは村人たちに天井から吊り下げてもらいたいと考えています。竹編みは楽しい！可愛いセパタクロールを作るのも楽しいですよ！学生や東伊豆の地元の方々は、ひとつひとつのボール作りに達成感を味わっていました。



News from Kg. Buayan



村の長老たちとお別れ

この地域で昔から受け継がれてきた美しいものへの眼差しやそして自然と共に暮らす生き方のかけがえのない先生であったお年寄りたちに別れを告げるのはとても悲しいことです。ヤグールさんは2023年1月21日に94歳で亡くなり、グンタティさんはその数か月前の2022年9月26日に87歳で天国に行きました。お二人は、第二次世界大戦の前に生まれ、多くの困難を乗り越えて生きてきて、私たちが大切にすべきものをたくさん教えてくれました。

